

事業名：評価の工夫改善に関する総合的推進地域事業
 学校名：呉市立安登小学校
 所在地：呉市安浦町安登西五丁目7-19
 H P：http://www.city.kure.hiroshima.jp/ato
 学校規模：8学級，214名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

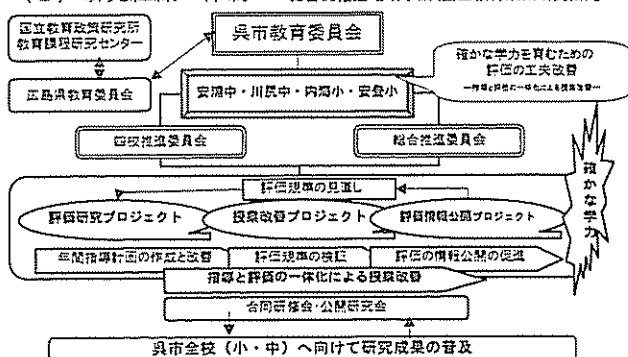
① 研究テーマ

論理的に考える力を育み、
豊かに伝え合う力を高める授業の創造
～国語科・算数科における評価の工夫改善を通して～

② 研究のねらい

昨年度、算数科を中心にして、具体的な評価規準の作成等、評価の工夫改善のための総合的な取り組みを行い、「目標に準拠した評価」の客観性・信頼性を高めようとしてきた。その結果、指導者が焦点化した指導と評価ができるようになるという成果が上がってきた一方で、CRTテストの結果分析から国語科では「読解力」、算数科では「思考力」が伸び悩んでいるということと、多様な児童の学習状況例を想定しておくことで幅のある評価活動やより適切な手立てを講じることができるようになるに配慮していく必要があるということが課題として明らかになった。そこで、本年度の取り組みの重点を国語科及び算数科を中心に、「論理的に考える力」を高めしていくこととし、その指導と評価の在り方を明らかにしていきたいと考えた。

(2) 研究組織・体制



(3) 研究内容

① 評価の工夫改善

- 評価規準、評価方法等の工夫改善
- 児童や保護者等への評価に関する情報の提供

② 「論理的に考え、豊かに伝え合う」授業づくり

- 「論理的に考え、豊かに伝え合う」子どもに育てるための学習活動の工夫
- 考えたことを伝える「学習のプロセス」を位置付けることによって、より考えを深める授業展開
- 評価を指導に生かし、児童一人一人の達成状況を配慮した指導の工夫

③ 基礎・基本をより身に付けるための工夫

- 「考える力」を高める問題・教材の作成・活用
- 基礎・基本の定着の場の工夫と定着状況の把握

2 授業改善の視点

- 単元における具体的評価規準の作成と学習状況に応じた手立ての想定
- 個々の児童が考えたことを「豊かに伝え合う」ことで、考えを筋道立てて整理し、より確かなものにする授業づくり

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

- 校内及び学校間での児童の学習状況の把握・分析を行う体制が軌道に乗ったことにより、より客観的・系統的な評価規準の見直しが図れるようになった。
- それぞれの授業で付けたい「論理的に考える力」をより確かに見取るための学習課題の提示・発問・ワークシート等の工夫を図ることにより、児童自身にも自己評価しやすい形で「論理的に考える力」の向上を図ることができた。
- 学習過程の考える場面での評価結果をもとに、「深める」場面での個別指導にあたることを位置付けるようにしたこと等により、「努力を要すると判断される」児童に対して、より適切な指導を行うことができた。

(2) 課題と今後の改善方策等

- 評価の客観性・信頼性を高めるためのペーパーテスト作成の工夫
「関心・意欲・態度」や「数学的な考え方」の観点について評価することの難しさを感じている。より客観性・信頼性の高い評価にしていくためには、それらの観点における力を児童にどのように表出させ、どのように見取るのかを明確にして取り組む必要がある。多様な評価方法が考えられるが、その一つとして、ペーパーテストの作成が考えられる。問題作成の配慮すべき点や新たな見取りの方法について、さらに追究していく。
- 評価を指導に生かす取組みを他教科へも広げる

本年度は、算数科、国語科を中心に取り組んでいる。取組みを他教科へも広げ、児童がより確かな学力を身に付けられるようにしていく。

○ 教員の力量の向上

教科の特性を踏まえ、教材分析や評価規準作成から見取りに至るまでの力量を高めていけるよう、研究を継続していく。

4 実践事例

【事例1：算数科における取組】

(1) 学年・教科等名 第4学年 算数科

(2) 単元の紹介

- ① 単元名 「一億をこえる数(啓林館4年上)」
- ② 単元の目標
 - 億や兆をこえる大きな数の表し方やしくみに関心をもち、それらの数のよみ方、かき方を「知ろうとする。【関】
 - 万までの十進位取り記数法の原理を生かして、億や兆までの数のしくみを考えることができる。【考】
 - 大きな数のよみ・かきができる。【表】
 - 大きな数の構成としくみが分かる。【知】

③ 単元の展開（「指導と評価の計画」の抜粋）

次	学習内容	学習目標	指導	評価	評価方法
	① 一億をこえる数を一兆をこえる数のよみ方、かき方（前時）	一億、一兆をこえる数の相対的な見方（本時）	○	○	つるやま 発言 ホワイト ボード
	② 一億、一兆をこえる数の相対的な見方（本時）	一億、一兆をこえる数の相対的な見方について考える。 ④【さらに小さい数】100万や100万よりさらに小さい数をもとにして、いくつ集まった数であるかと考えることができる。 【チャレンジ問題】チャレンジ問題④を解き、考え方を説明することができる。	○	○	つるやま 発言 ホワイト ボード プリント

(3) 授業改善のポイント

① 指導方法の工夫：

- 単元の「指導と評価の計画」
- 評価結果を指導に生かす
 - ・既習事項を振り返る教室環境づくり
 - ・学習課題の設定の工夫
 - ・評価を生かした学習展開の工夫
 - ・「数学的な考え方」を深める教材・教具の開発

② 評価の工夫：

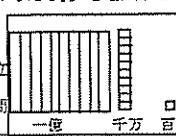
- 具体的評価規準の設定と児童の学習状況例の想定
- 2年間の取組で評価規準の精度を上げる。
 - ・学習状況例の収集を基に評価規準の見直しを行う。
 - ・校内研や学校間のすり合わせなどにより、多数の指導者の目で学習状況を交流して評価規準を改善する。

(4) 授業の様子（児童の変化）

【前時の評価結果の検証（既習事項の定着状況の把握）】

前時の「学習活動における具体的評価規準」の「一億、一兆をこえる数のしくみやよみ方・かき方について理解している。」は、本時の評価規準である「一億、一兆をこえる数の相対的な見方について考える。」を達成する上での基礎となる事項である。

児童は、「数の仕組み表」「位取り表」「数パネル」などの提示物や半具体物を用いた学習活動の中で、多くの児童が一億をこえる数においても、一つの位の数が10個集まることで、一つ上の位に上がることを理解した。しかし、その後の定着を確かめる問題において、3名の児童が自力解決にとまどった。そこで、その関係を「数パネル」を使って解決するよう助言した。その結果、3名は、問題解決することができた。



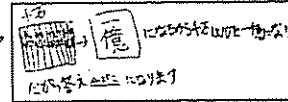
【数パネル】

【評価規準の明確化と学習状況例の想定～本時の授業】

観点	学習活動における具体的評価規準 「十分満足できると判断される」状況(A)と評価されるキーワード及び具体例	「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される児童への手立て
数学的な考え方	一億、一兆をこえる数の相対的な見方について考える。 【さらに小さい数】100万や100万よりさらに小さい数をもとにして、いくつ集まった数であることと対的な見方について考える。 【チャレンジ問題】チャレンジ問題④を解き、考え方を説明することができる。	・半具体物（数のパネル）を操作させる。 ・位取りプリントを活用させる。 ・一万、十万、百万、千万、一億の関係が分る提示をしておく。 ・千万の10個分が一億であることを助言する。

【児童の実現状況の収集と評価記録】

資料1に示すような児童の記述から、一人一人の実現状況を把握する。
記述の他に、発言、行動観察等、いくつかの評価方法を組み合わせることで、「おおむね満足と判断できる」状況と評価できた。



資料1 児童の記述例

【評価結果を活用した学習内容の深化と評価規準の見直し】

評価結果を基に、「考える」場面での手立てを講じたり、評価規準の見直しをしたりする。（この単元については、地域で2年間継続して取り組み、評価規準の精度を上げられるよう努めた。）

【事例2：国語科における取組】

(1) 学年・教科等名 第3学年 国語科

(2) 単元の紹介

① 単元名 「要点をとらえて読み取ろう」～説明文「つな引きのお祭り（東京書籍3年下）」をもとに～

② 単元の目標

◎ 目的に応じ、内容の中心や要点をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら、文章を正しく読み取る。【読む】

③ 単元の展開（「指導と評価の計画」の抜粋）

目標	内容	指導事項 (カルテ等)	学習活動における具体的評価規準 「十分満足できると判断される」状況(A)と評価される児童への手立て	「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される児童への手立て
【既習事項の活用】 約2つの事柄の読み取りを基に、他の事柄とのつながりに着目して読み取ることができる。	書かれている内容を正しく読み取る。	イ-5 イ-6	キーワードやキーワードを見つけたら、小見出しを考えている。	キーワードやキーワードを見つけたら、小見出しを考えている。
【中心に読む】 【つな引き】 【お祭り】	書かれている内容を正しく読み取る。	イ-5 イ-6	キーワードやキーワードを見つけたら、小見出しを考えている。	キーワードやキーワードを見つけたら、小見出しを考えている。
【お祭り】 【つな引き】	書かれている内容を自力で読み取る。	イ-5 イ-6	自力でキーワードやキーワードを見つけたら、小見出しや見出しを考えている。	自力でキーワードやキーワードを見つけたら、小見出しや見出しを考えている。
説明文「つな引きのお祭り」の読み取り、簡明		イ-8	大きなまとまりを見つけて読み取る。	大きなまとまりを見つけて読み取る。

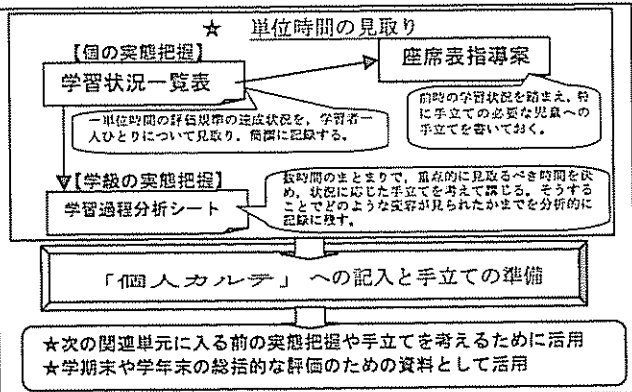
(3) 授業改善のポイント

① 指導方法の工夫：

- 付けたい力の重点化
- 要点を読み取る力を高めるワークシートの工夫
- 評価を生かした学習展開の工夫

② 評価の工夫：

- 単元における見取りのステップ
- 「個人カルテ」の作成と活用による個の見取り



○「学習過程分析シート」による学級の傾向の分析（指導のポイントを絞り、一斉指導に役立たせる。）

